

| | | | | | |
|-------------|------|-----|-----|---|-----|
| 續裁縫おさいくもの | 伊達高堀 | 文鏡 | 子子子 | 一 | 全 |
| 和洋裁縫教本 (上下) | 藤田 | 文鏡 | 子子子 | 二 | 全 |
| 足袋の裁ち縫ひおけいこ | 堀越 | 千代子 | 福藏 | 一 | 裁縫室 |
| 全 | 全 | | | 一 | 全 |
| 和洋裁縫教本 (上下) | 堀越 | 千代子 | | 二 | 全 |
| 全 (上下) | 全 | | | 二 | 全 |

十 産 業

| | | | |
|--------|-------|---|---|
| 國民工業資料 | 足田桂太郎 | 一 | 全 |
| 教育 | 油田伊介 | 一 | 全 |
| 織物仕上法 | | | |

十一 雜 載

| | | | |
|---------------|-------|---|-----|
| 隨感隨想 | 澤柳政太郎 | 一 | 圖書室 |
| 烈聖全集 御製集(第一卷) | 列聖全集編 | 一 | 全 |
| 徳川文藝類聚 (第十) | 圖書刊行會 | 一 | 圖書室 |
| 吾妻鏡 (吉川本) | 全 | 一 | 全 |

附 録

紀念日記事

第一日 本校の創立四十年分立二十五年紀念式は二十九日午前十時より講堂に於て行はれたり。開會前二十分皇后陛下御使として伏見宮博恭王妃殿下着御あり御用掛一名事務官一名を従へ職員生徒及び來賓一同の御出迎を受けさせ給ひつゝ本館樓上の便殿(會議室を以て充つ)に入らせられ定刻十時中川校長の御案内にて式場に臨ませられ總員起立敬禮の中に令旨を賜ひ中川校長之に奉答し(これまで總員起立續いて照憲皇太后陛下より賜りたる御歌みがかずばの合唱あり中川校長の式辭高田文相の祝辭職員總代教授岩川友太郎氏生徒總代佐藤やす子卒業生總代戸野みなる子の祝辭來賓總代細川潤次郎氏嘉納治五郎氏等の祝辭代讀あり。更に君が代の合唱ありて後妃殿下には總員最敬禮の中に御退場あらせられ別室に陳列せる記念品成績品等を御順覽の上十一時卅分還啓あらせられたり。

當時本校二階3.4.5.教室を特別陳列室としたり。

次に各教室の陳列目錄と合せて掲ぐ。

記念日特別室陳列品目録

第一室

本校沿革ニ關スルモノ

開校當日

昭憲皇太后ヨリ賜ハリシ旨

御下賜御歌寫

校 旗

校地校舎面積變遷比較圖 } 一枚

經費累年比較圖 } 一枚

本校卒業生分布圖 } 一枚

本校卒業生累年比較表 } 一枚

舊校舎ノ寫真

本校卒業生寫真

開校以後ノ一覽及ビ年報

本校創立書類

祝詞演述書類 (卒業式等)

卒業式關係書 (明治十八年二月ヨリ)

第十一回行啓關係書類 明治四十五年

六月三日

舊職員ノ寫真

賞 牌

生徒體操ノ寫真

共通學科ニ關スルモノ

修 身

昭憲皇太后恩賜圖書 七册

幼學綱要 宮内省藏版 七册

婦女鑑 宮内省藏版 六册

論 理 後藤點 四册

貝原篤信編輯

初學知要 三册

松本萬年標註

標註劉旬烈女傳 三册

鷺雄左衛門訓點

小學內編 一册

小學外編 一册

鈴木至政纂輯

嘉言錄 二册

女 誠 一册

南摩綱紀著

小學修身課書 十一册

南摩綱紀編

修身課書 一册

佛國バルロー原著 中村正直朱書校訂

本修身鑑 三册

教 育

米國ダウエイ著 關信三譯 明治九年

幼稚園記和本 全四册

東京女子師範學校印行

英國スペンサー著 尺振八譯 明治十三年

斯氏教育論 文部省印行

伊澤修二著 明治十五年

學校管理法

獨逸ソエケール著 村岡譯 明治十二年

平民學校論 文部省印行

伊澤修二著 明治十五、六年

教育學 合本

伊澤修二著 明治十五年

學校管理法續編

米國ジョホノット著 明治十六年

高嶺秀夫譯

教育新論

故事探錄松岡太愿稿本

本邦女子教育沿革取調書 一册

米國アラケット著 中村正直譯

美國女子教育論譯本原稿 二册

音 樂

琴 譜

コーンブアンゲン 一册

ベンダ 一册

小唱歌集 三册

新中等唱歌 二册

島崎赤太郎編

オルガン教科書 二册

小學唱歌集用オルガン 樂譜

重音唱歌集 二册

女學唱歌 二册

文科ニ關スルモノ

文科修學旅行一覽 (關西及鎌倉)

文科地理修學旅行一覽 (箱根及日光足尾)

文科各學年成績 作文、地理成績品

理科ニ關スルモノ

物理化學

物理實驗成績

開校當時ノ物理器械 (線膨脹係數ヲ示ス装置)

羅斯理氏化學 茂木春右譯

簡易化學器械 中川謙二郎著

動物、植物

田中芳男撰 明治十年文部省出版

動物掛圖 三軸

岩川佐々木編 明治十八年文部省編輯局出版

動物通解 前後 二册

川崎典民編 明治廿一年出版

人身生理書 一部 六册

高嶺、岩川撰

動物比較解剖圖及解説 四軸ノ中二軸

田中芳男撰 明治八、九兩年博物局出版

動物圖 十八枚

田中芳男撰

有用動物標本 四函

植 物

植 物

小野職慈編 明治六年文部省出版

植物圖 一軸

矢田部良吉編 明治十年文部省編輯局出版

植物通解 一册

グレー著

フキルド、ブツク、ナブ、ホタニ、

有用植物標本 四函

植物顯微鏡實驗成績 なしノ石細胞

同 紙ノ纖維

本校構内植物目録及地圖

技藝科家事科ニ關スルモノ

保健標準食料模型一揃並ニ其ノ定價表

電氣燈及瓦斯燈、其ノ光力及價格

木炭ストーブ

石油ストーブ

薪ストーブ

瓦斯ストーブ

石炭ストーブ

什器磨キ方 數品

洗濯物 數品

洗張物 數品

第二室

技藝科家事科ニ關スルモノ

西洋畫

家事科一年

鉛筆畫 寫生 四

圖 按 二

家事科二年

鉛筆畫 寫生 一

| | |
|----------------|----|
| 色鉛筆 寫生 | 二 |
| 水彩畫 寫生 | 二 |
| 圖 按 | 二 |
| 製 圖 | 二 |
| 技藝科三年 | |
| 鉛筆畫寫生 | 二 |
| 水彩畫寫生 | 二 |
| 製 圖 | 一 |
| 毛筆畫 | 一 |
| 家事科一年 | |
| 臨 畫 | 三 |
| 寫 生 | 四 |
| 家事科二年 | |
| 臨 畫 | 二 |
| 寫 生 | 六 |
| 技藝科三年 | |
| 臨 畫 | 三 |
| 寫 生 | 二 |
| 新 按 | 二 |
| 技藝科四年 | |
| 臨 畫 | 二 |
| 裁縫標本(今昔對照) | |
| 初時ノモノ | 二 |
| 中時ノモノ | 三 |
| 現今ノモノ | 七 |
| 裁縫教科書(今昔對照) | |
| 初時ノモノ | 一册 |
| 中時ノモノ | 一册 |
| 現今ノモノ | 四册 |
| 裁縫教授細目 中期一、現今一 | |
| 裁縫教授用掛圖 | 一 |
| 裁縫用掛圖(今昔對照) | |
| 初時ノモノ | 一 |
| 中時ノモノ | 一 |

| | |
|----------------------|---|
| 一 現今ノモノ | 三 |
| 裁縫成績 | |
| 家事科一年 | |
| 前 掛 | 一 |
| 男物單衣 | 一 |
| 男物 袴 | 一 |
| 女物縮入 | 一 |
| 四ツ身縮入 | 一 |
| 家事科二年 | |
| 被 布 | 一 |
| 女物羽織 | 一 |
| 女物 袴 | 一 |
| 丸 帶 | 一 |
| 腹合帶 | 一 |
| 技藝科三年 | |
| 男物縮入重 | 一 |
| 女物袴重 | 一 |
| 女物縮入重 | 一 |
| 女物單衣重 | 一 |
| 技藝科四年 | |
| 男兒洋服 (水兵形) | 一 |
| 女 兒 服 | 一 |
| 女兒帽子 | 一 |
| ケ ー プ | 一 |
| 女兒帽子 | 一 |
| 六七才男兒洋服 | 一 |
| 技藝科四年成績 | |
| 生徒成績女兒洋服說明圖 | 一 |
| 男兒洋服水兵形割出圖 其ノ一 | 一 |
| 男兒洋服水兵形割出圖 其ノ二 | 一 |
| 第六臨時教員養成所第一部及第二部生徒成績 | |
| 男物縮入 | 一 |

| | |
|---------------|---|
| 女物縮入 | 一 |
| 四ツ身縮入 | 一 |
| 女物單衣 | 一 |
| 四ツ身單衣 | 一 |
| 女 袴 | 一 |
| 幼稚園幼兒服 生徒共同考案 | 一 |
| 女物縮入重 | 一 |
| 男物縮入 | 一 |
| 女物縮入 | 一 |
| 四ツ身縮入重 | 一 |
| 女物 袴 | 一 |
| 女物單衣 | 一 |
| 四ツ身單衣 | 一 |
| 明治三十四年度生徒共同考案 | |
| 小學校女生徒服 | 一 |
| 明治三十四年度生徒共同考案 | |
| 女學校生徒服 | 一 |
| 生徒服說明要項及裁方圖解 | 一 |
| 手 工 | |
| 紙細工附製本 | 三 |
| 竹 細 工 | 一 |
| 金 工 | 四 |
| 粘土細工 | 三 |
| 木 工 | 二 |
| 木工作圖及製品 | 四 |
| 色染及機械 | 一 |
| 印 刷 | 一 |
| 編 物 | |
| 置 物 敷 | 一 |
| 丸 帽 子 | 一 |
| シ ャ ッ | 一 |
| 花 瓶 敷 | 二 |
| 花 帽 子 | 一 |
| 雪 帽 子 | 一 |

| | |
|------------|---|
| 手 提 袋 | 二 |
| ネクタイ | 一 |
| 婦人ネクタイ | 一 |
| 手 袋 | 一 |
| 名 刺 入 | 一 |
| 涎 掛 | 一 |
| 皿 敷 | 一 |
| 教科書 | |
| 家事編物教授細目 | 一 |
| 編物教科書 | 一 |
| 囊 物 | |
| 内日の出形紙入 | 一 |
| 縁取箱迫 | 一 |
| 守 巾 着 | 一 |
| 利休形 小被セ附紙入 | 一 |
| 名 刺 入 | 一 |
| 楊 枝 入 | 一 |
| 手 提 | 一 |
| 煙 草 入 | 一 |
| 小紗挿み | 一 |
| 箱 迫 | 一 |
| 櫛 入 | 一 |
| 子持襦利休形紙入 | 一 |
| 紙 挿 み | 一 |
| 卷煙草入 | 一 |
| 裏皮ニツ折銀貨入 | 一 |
| 襦附紙挿み | 一 |
| 兩被セ附紙挿み | 一 |
| 帶 留 | 一 |
| 外日ノ出線取紙入 | 一 |
| 三ツ卷財布 | 一 |
| 被セ附紙挿み | 一 |
| 裝束形紙入 | 一 |
| 刺 繡 | 一 |

- 衝立 一枚
- 帛紗 一枚
- 額面 一枚
- 半襟 三枚
- 寫真立 一枚
- 寫真立 一枚
- 手さげ袋 一枚
- 小帛紗 一枚
- 造花 一枚
- ひなげし 一枚
- きく 一枚

第三室

附屬高等女學校

- 卒業生分布圖 一枚
- 卒業生寫真帖 六冊
- 女學校沿革誌 二冊
- 入學者ニ對スル卒業生歩合圖表 一枚
- 生徒身長體重累年比較圖表 一枚
- 教科書 (今昔對照)
- 東京女學校時代ノモノ (明治六年)
- 附屬高等女學校(明治十五年頃ノモノ)
- 同 (現今ノモノ)
- 成績物 (今昔對照)
- 作文, 圖畫, 習字
- 卒業證書 (今昔對照)
- 東京高等女學校時代ノモノ
- 附屬高等女學校時代ノモノ
- 附屬高等女學校本科第一號ノモノ
- 同上專攻科第一號ノモノ
- 本科及專攻科最近ノモノ
- 賞品 (明治十八年羽鳥うめ子ノ受領シタルモノ)
- 明治三十八年五月二十日

- 傷病兵慰藉大運動會ノ寫真及プロラ
- 卒業式ニ於ケル女學校生徒服裝變遷圖 一枚
- 運動會賞牌 (明治三十五年一月制定)
- 一等賞 二個
- 二等 一個
- 同上
- 生徒當番記 明治三十四年七月制定
- 明治三十七年九月以降實施
- 食後五分間談話記要 二冊
- 明治三十九年六月制定

- 生徒徽章ノ佩帶及説明書
- 家庭ニ於ケル生徒行事調査書 (大正二年九月)
- 大正二年十二月十日開始
- 女學校生徒ノ一齊體操ノ寫真
- 大正三年六月開始
- 自由作業ノ規定趣旨成績及寫真
- 女學校生徒讀物調査報告書 (大正四年六月)
- 女學校生徒理想調査報告書 (大正四年七月)
- 裁縫成績品 本科實科 專攻科
- 女學校本科各學年圖畫成績 三軸
- 女學校本科各學年習字成績 二軸

附屬小學校

- 沿革統計圖表 四枚
- 舊教科書 七十一冊
- 明治, 大正年間研究報告書 十六冊
- 教授要項並ニ訓練要項 七冊
- 規則綴 一部
- 書方成績 十九點

- 綴方成績 八冊
- 地理歴史成績品 七點
- 理科成績品 二點
- 裁縫成績 十點
- 圖畫成績 五點
- 卒業生及作業等ノ寫真 二十一點

附屬幼稚園

- 沿革ニ關スル古書類及規則類
- 開園當時使用セシ參考書類
- 沿革ヲ示ス寫真
- 幼兒手工成績 (今昔對照)
- 幼兒ノ寫真 (今昔對照)

女子教育研究部

- 我國幼稚園期兒童身體發育表 (大正二年七月調査)
- 本校生徒ノ身長體重ニ關スル調査表 (自明治三十八年三年至大正二年三月)
- 本校文理技藝各科卒業生四ヶ年分ノ學業成績及教育實習成績平均比較表 三枚
- 附屬女學校生徒身體發育調査表 (大正三年三月調査)
- 明治三十年度以後ニ於ケル我國(男女教員數ノ割合ノ變遷中ノ)女教員數變遷ノ百分率圖表 (大正三年十一月調査)

- 一 女子教育婦人問題ニ關スル日本出版書籍雜誌表 (大正三年十一月調査)
- 一 本校生徒十ヶ年間 (自明治三十七年) 身長體重胸圍變遷ノ一覽圖表

教官及ヒ卒業生ノ考案物

- 霧吹 卒業生 大多和きよ
- 衣紋掛 卒業生 山根 春野
- 色彩實驗器 訓導 藤 五代策
- 透視圖法説明器 訓導 藤 五代策
- 寫生臺 訓導 藤 五代策
- 位置ノ説明器 訓導 藤 五代策
- 方位尺 教授 西村 万壽
- 簡便測緯器 教授 西村 万壽
- 植物蒸騰計 教授 矢部 吉禎
- 助教授 保井 コノ
- 炭酸瓦斯定量器 教授 近藤 耕藏
- 製水器 教授 近藤 耕藏
- 瓦斯發生器 教授 近藤 耕藏
- 壺流作用ヲ示ス器 教授 乙部 孝吉
- 線膨脹ヲ示ス裝置 教授 乙部 孝吉
- 振動顯微鏡ニ代ルベキ投影裝置 附廻轉鏡 教授 乙部 孝吉
- 分度器 教授 森 岩太郎
- 尺度 教授 森 岩太郎
- 正多角形内ノ正方形ノ數(論文) 卒業生 牧田 らく

化學室陳列品目錄

- 高温計
- オゾン發生器
- 石英器具
- るまなちおん測定器(本邦製)

低温度用寒暖計

ローランド氏比色器

七寶燒順序

天然色寫眞

セルロイド標本(本邦製)

恒温槽

水の電氣分解

攪拌装置

音に感ぢ易き燭

水銀の虫(二種)

ゲルベル氏脂乳計

ソークスレット脂肪浸出器

有色燭。^(リチウム、ナトリウム) 珪酸鹽にてつくられたる草

燭に依る發装置

色硝子を通して彩色畫を見る装置

物理室の陳列

先づ廊下にある及田氏附動器の箱に白布を蔽ひて臺とし生徒の成績品陳列したりその重なるもの下の如し。

音叉の振動圖及寫眞クラドニ氏的圖 クンド管定常
附節點圖減衰振動の圖 簡易廻轉鏡 磁力線の寫眞
磁極の檢出圖 生徒の實驗帳の今昔 ベンマイ秤 秤

秤 實驗表(之を壁に貼り附けたり) フラスコにて作りたる[エレクトロスコープ]。

ランプのホヤと硝子瓶にて作りたる水ポンプ。生徒の作りたるメトリル尺(ミクメーター目盛) 惰性試験器 熱量計。

四年生の作りたる變壓器、乾電池、電話機。簡易光度計、ブンゼン燈、浮沈子。硝子細工、卒業生の寫眞帖。

この外廊下の右側には重くして動かすべからざるピアンキ排氣器及びピストン附の舊式排氣器をそのまま利用し排氣装置の今昔(その一)と題し歴史的に面白き故此處に陳列すと斷り置けり。それより紙の矢にて示されたる順路物理教官室に入れは向の壁に教官の引伸したる[マダムキューリー]の肖像あり。題して[らぢいむ]の發見者キューリー夫人。長岡半太郎博士の所藏に係るものを引伸したるものなりといふ。器械戸棚は全部鍵をかけて萬一の用意をなせり。準備机の上には白布を蔽ひその上には主として江澤駒路が研究生たりしとき作りたるものを陳列せり。

理科會雜誌の今昔

Dividing engine に注目したる人は僅か二三人あり此の。[バログラフ]には簡單なる説明を附し電氣ストーブ

には「悪い臭の出ないのが特長です日本人は寒ければお寒う御座いますとて平気で居る人種です」と書いて置きたり。

參觀人の多數特に女子は電燈用のアムメーターに注意してその説明を聴き炭素線の5燭と、タングステンの10燭との比較を目前に見て大に感興を催せるものゝ如し。庄川氏説明の勞を取り「皆之を見てゆきます」といひ居たり。

尙流しの左方の机の上には電線の今昔と題し、ギルベル氏サーモゾイレを置いて豆らんぶに点火し、側には紙製湯わかしを置き流しには取附けたるまゝのガス湯ワカンを置きたり。

それより教室に入れば教壇の上には例の廻轉磁場の實驗あり、三相交流にてこの實驗をなすは珍らしきことにあらねどランプサーキットの單相交流を用ひて行ふ所に考案の趣味あり。尙外に乙部教官の考案したるレーミング氏左手の規則を證明する装置あり。線膨脹を示す簡易装置をも陳列したり。

右側のテーブルには排氣機の今昔と題し「ゲーデ」氏水銀ポンプ及び同氏ロータリーポンプを置きたり。

教室より廊下に向ふ戸口には講堂の廢燈を利用して作りたる「ランプ、レジスタンス」あり。Maxkohl社製配電盤

には電線の今昔(その二)と題し簡単に其の使用法と電力料金額等を掲げその下に舊式の「ゴロゴロ、ダイナモ」を置きたるは實に今昔の感に堪へず。此の配電盤は購入の當時 Maxkohl 社製なぞ駄目だとふ人ありしかども實際使用して見て甚だ便利なるは都合よし。

配電室のテーブルには窒素電球ありレンズにてその織條を白紙に投影せり。その側に電流計の今昔あり三種の電流計を陳列せり。記電室の入口に大なる平面鏡を置き室内に左文字にて出口と書き入口より見れば右文字に見ゆる如くしたり。

動物教室

第一動植物實驗室

1. 解剖材料の種類
2. 解剖器械の種類
3. 水壓氣壓動物注射装置
4. ザウリムシ培養

其觀察及び見取圖

是はザウリムシを培養せる壺と此動物に洋紅の粉末を食せしめたるものを顯微鏡下に装置したるものにて眞紅の粉末を食胞に充たせて縦横無盡に游

は驚き廻はる様面白き爲め觀覽者の足は一時皆此に止まるを見たり。

5. ラツバムシ培養
其觀察及び見取圖

是も前種同様に装置したるものラツバムシは教室にて年を重ね飼養せるものにて此頃は殊に蕃殖盛なりにて所々に群落を作り十分伸長したるものは花紋幾箇の如く美しきも前者の如く活潑ならざれば人の足音を止むる事少なし。

6. 人骨の切片製作順序
其觀察並に見取圖

7. 永久プレパラート製作順序
大體を九項に分ち材料に初まり出来上りたるプレパラートに終る迄三拾五段の順序を悉く實物にて實際を示し置きたり。

8. 生徒の製作品
A. 解剖見取圖

B. 動物組織見取圖

C. 剝製器

鳥類 獸類 魚類

D. 永久プレパラート

第七教室

1. 顯微鏡並に實物幻燈
本年植物教室と動物教室共同にて購入したるもの

實寫の位置を示して陳列し置きたり

2. 昆蟲標本

3. 貝類標本

本校の貝類標本は實に豊富なるものなれど標本室狹溢にて是迄一回も陳列するの機會を得ざりしが今回は其一部分を陳列したり。

動物標本室
大體は常の通りにて唯少しく通行の便を考へ陳列の位置を換へたり。

廊下の陳列
此にはかねて標本室狹溢の爲め持出し陳列したる標本戸棚の外に窓下には種々の動物を飼育し置きたり。

植物教室の陳列

キャツサバ、葛、片栗、甘藷、馬鈴薯、アローグート、蘇鐵、米、小麥、玉蜀黍、綠豆の澱粉及其原料と製品。

澱粉糖化の實驗裝置

大豆、落花生、榧、胡麻、蓖麻、芥子、菜種、亞麻

オリーブ、荏の種子より採取したる油と原料。
 茶のテイン。
 こぼうの根を顕微鏡下に装置したるものとこれより得たるイヌリン。
 製紙原料 pulp を顕微鏡下に装置す。
 ボルボックス。
 わかめの腊葉。
 菊池のり、水善寺のり、大谷川のり、鴨川のり、あをのり、あをのり、浅草のり、紫菜、髪菜。
 諸種のかびをクノツブ氏液、醬油、食パン、じゃがいもに培養したるもの。
 甘酒中の酵母菌
 ゼラチン培養基を空気中にて一、二、三、五、七、十分間蓋を去りて細菌をよびたるもの及び集落計算器。
 牛肉に培養したる腐敗バクテリア。
 以上記したるものには顕微鏡下見取圖を添へたり。
 コツホ消毒器。乾燥消毒器。
 原葉體の培養。光蘚。
 實驗材料。顕微鏡實驗順序。寫圖裝置。
 顯花植物實驗。
 生理實驗として下の裝置をなす。
 發芽せんとする種子の膨脹力試験、自記植物蒸騰計、圖

境蒸騰計、花の呼吸、種子の分子間呼吸、種子の呼吸熱測定、水中培養、莖の向日性、植物成長指針、植物廻轉器、莖の回旋成長測定、水平顯微鏡。
 日光採集成績として地圖上に採集地方を示せるもの
 採集品の腊葉、中禪寺湖と湯湖のプランクトン及び旅行日記。
 南阿植物の腊葉、ハツビービーン及プロテアの果實、安産樹、銀葉木。
 南洋トラツク島のアイボリーナツト及海藻、ヤツブ島のタローと其寫眞。
 ザアニラ。
 蘇鐵の花。
 化石植物、石炭紀化石のプレバラート、封印木の模型。
 水槽中のむじなも、たぬきも、さんせうも、きんきよも。
 特別室に陳列せしものは次の如し。
 有用植物標本
 明治二十年頃使用したる矢田部良吉編植物通解及びグレー氏フィールドブックオブボタニー
 なしの石細胞及植物纖維の顯微鏡實驗
 本校構内植物目錄及同主要なる植物の所在を示す圖

記念日第二日祝賀會の記

花もて飾れる講堂の内外電燈の光まばゆく、午後五時といふに祝賀の式始まる。職員新舊卒業者及び在校生徒各自の席につきて間もなく生徒中より撰まれたる祝賀會幹事の一人起ちて開會の辭を述べ、次いで中川校長の演説あり。先づ紀念館設立に關する事より説きて紀念文庫を設くることに及び、最後に本校か兎も角他校と同一視すべからざる校風の存するは、基礎の強固なる所以なりと述べ、在校生徒は將來益々此の校風的美點を發揚すべしと結べり。

それより卒業生たる佐方氏次いで後閑氏起ちて開校當時より明治十七年頃まで學校の模様を述べられ、次いで某氏は例の流暢なる辯を以て18年頃より24年頃までの寄宿生活の狀態より、學課授業其他校内の模様等について述べられ、聴くものをしてそらろに當時を想ひ起さむめたり。間もなく技藝科四年生の作りたる折詰出で一同食事す。

年頃はや在校生徒を末の子に持つ母にも等しかるべき中老の人々も同期卒業の情味は變らぬものか皆互に手を取りて打ち語らひ興する様いと珍らし。

我側面よりこの景を見て曾て讀みたりしホーソンの

Twice told Tales の中にある「ドクトルハイデケル氏の實驗」を思ひ出して苦笑を禁せざるを得ざりき。

次いで餘興始まる。

その中にて此の紀念日に關係ある最も面白きものは開校當時の唱歌にして、その頃の卒業生有志の諸氏宮内省の俗人某氏につきて日夜複習せられたるものなりとぞ。其の歌に曰く

かひあるちよ

伊勢の海、清きなきさにひろふてふかひあるちよは君ぞかぞへむ。

つゆじも

露霜に梢は色に出にけりころもの袖を吹く風も身に染む蟲の聲すなり驚かれけり年月は半を疾くもすぎのむらだち。

近頃流行するふるひ聲の獨唱とかいふものに比ぶれば實に今昔の感に堪へず。前者は車馬喧噪の十字街頭を走るが如く、後者は松風ふく並木の街道に立つが如し。

たい誰やらん後ろの方にて念佛の様なりとは甚だ失禮なる酷評なり。

次いで創立當時の幼稚園唱歌あり、その頃の保母たりし人々近頃若き敎生のするやうなる働作す。願ふにその保育を受けし幼兒ははや幾人かの子の親にやあらん

めでたき限りにこそ。

最後に在校生の假裝行列あり。佐方先生後閑先生時代と題して唐人髷の黒ゑりつけたる初々しき二人の娘出で来る。續いて春田先生時代下田先生時代といふを見れば島田髷なり。來れり來れり續いて來れり題して波佐谷先生時代安井先生時代といふ。こはまた如何に前とは異なることよ！純日本式より一躍して純洋式に變りたりとやいふべき。其の頃は上流社會に終夜の舞踏會など屢々ありし時代を遺憾なく表はしたり。見よ其の張れる胸ひける裳より帽子も靴も、實に是れ當時の歐化主義の權化にあらず也。裝へる人々の化粧巧にてあまりに常と變りたれば遠くよりは誰やら見わけ得べくもあらず。揚々乎として二人づゝ腕を組みつゝ行く様當時はさもこそと思はれたり。

續いて西島先生岡田先生時代といふが来る。これはまた前の時代の反動か再びあげまき紋付の和服姿なり(24年より32年頃までなりとぞ)。その次は大江先生時代といふ袴を用ひ初めたるはこの頃なりとぞ(33年)。東髪Sの字形なる如何にも昨日古き寫真にて見たる人々のまゝなり。

尙續いて35年頃の二階堂先生時代といふのが来る(前がみの初めなりとぞ)。

一隊の行列表すれの音も爽かに講堂をめぐるごと三回見る人皆起ちて拍手喝采して止まず。我亦折悪く寫眞機を持合せざりしを恨みぬ。

紀念日第三日

午前九時より晝まで約一時間づゝにて下の三つの講演ありたり。

本校の歴史

福羽美靜先生

中村敬字先生

午後は音樂會あり

下 田 教 授

松 本 愛 重 博 士

井 上 哲 次 郎 博 士

かくしてこの目出度き紀念日も無事に過ぎぬ。他日何かの參考にもと思ひてかくは記し置くなり。

自大正四年七月七日 會員領收報告 至同 年十一月三十日

一金六拾錢宛 (大正四年分)

豊田ヨシ 張佩芬 萩原セシ 門田あき
鈴木スヰ 常松ツネ 津田まゆみ 安井トク

一金壹圓貳拾錢宛 (大正三年ト四年分)

松岡チカ 井合とき 大地原たみ
大正五ト六 中井スエ